

今後の対策（案）について

調査結果で得られたデータを基に、大江川におけるアオコの発生を抑制する具体的な対策として、以下の案において、可能なものから実施していくことを検討する。

(1) 生活系、産業系、その他の要因による栄養塩類の流入量の分析と抑制に向けた取り組み
大江川の域外からの総リン、総窒素の流入を抑制していく対策の一環として、総リン、総窒素の大江川の域外からの流入を防ぐため、生活系、産業系、その他の要因に関する分析と、抑制に向けた関係者の理解促進を図る。

(2) 下水道整備、下水道への接続率の向上に向けた取り組み

大江川の域外からの総リン、総窒素の流入を抑制していく対策の一環として、大江川流域（海津市）の下水道接続率向上に向けて、海津市の下水道整備計画に合わせて、さらなる住民の理解促進を図る。

※ 海津市の下水道整備計画は、平成 34 年度完了目標で整備中

下水道整備の状況（海津市、H23. 10. 31 現在、人口ベース）

- ・下水道普及率…81%
- ・下水道接続による水洗化率…64%

(3) 底泥の浚渫等

底質の成分分析の結果において、(22 年度にアオコが大量発生した) 馬目橋付近で採取した底泥の成分中には特に総リン、総窒素の濃度が高く、また、DO（溶存酸素）の値が低下し、嫌気状態になると、リンの溶出が顕著に認められたことなどから、馬目橋付近の底質の改善を図るため、底泥の浚渫等の実施について検討する。

(4) 暫定導水事業の実施

導水社会実験の結果において、導水による大江川の水質、水温の改善効果が一部認められたことから、上記(1)～(3)等の対策を関係機関と連携し進めていく過程において、効果が発現されるまでの間、夏場の高温時にアオコの発生を抑制する緊急的かつ暫定的な対策として、施設整備等も含め、費用対効果を勘案しつつ、水源対策を含めた大江川への新たな導水方策について検討する。

実施にあたっては、アオコの発生メカニズムを勘案すると、下記①～⑤の条件が同時に発生することを避ける必要があり、導水は、②、③の低下に効果があることから、実施体制を整備した上で、①～⑤が同時に発生している状況が見られる場合において、速やかに

実施する方法を検討する。

(アオコ発生の条件)

- ① 滞留時間が十分であること（風が弱く、水の流れが穏やかであること）
- ② アオコ発生地点の域外からの流入、あるいは域内（底質（川底の泥））からの栄養塩の溶出、巻き上げにより、T-P（総リン）、T-N（総窒素）が水中に高濃度存在すること
- ③ 外温は15～30℃であり、水温は30℃近くあること
- ④ pHは6～9程度であること
- ⑤ 日射量が十分であること

(5) 大江川下流部の排水機場からの排水

大江川の流速を上げるため、下流部の排水機場（高須輪中排水機場、大江排水機場）から排水用のポンプ等により排水を行うことを検討する。

また、(4)の導水とあわせて実施することで、更なる効果が期待できることから、導水との連携についても検討する。

(下線部は協議会の議論を踏まえ追記した部分)